

新発見！ 交趾郡政庁

—幻のベトナム古代都市・ルイロウ遺跡—

東アジア文化圏の形成研究プロジェクト ニュースレターNo.1
発行日 2018.8.1 東亜大学

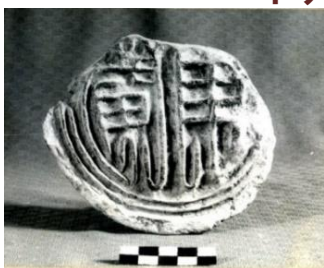


日越共同調査 調印式

東亜大学とベトナム国家歴史博物館は、考古学共同調査の5年協定を交わし、ベトナム遺跡調査プロジェクトを立ち上げ、紅河デルタ平野に残るルイロウ城址・古墳群の学術調査と発掘を継続的に実施、展開しています。



ベトナム国史跡 ルイロウ城址 土塁と環濠で囲まれた方形城郭



城内出土「萬歳」瓦当

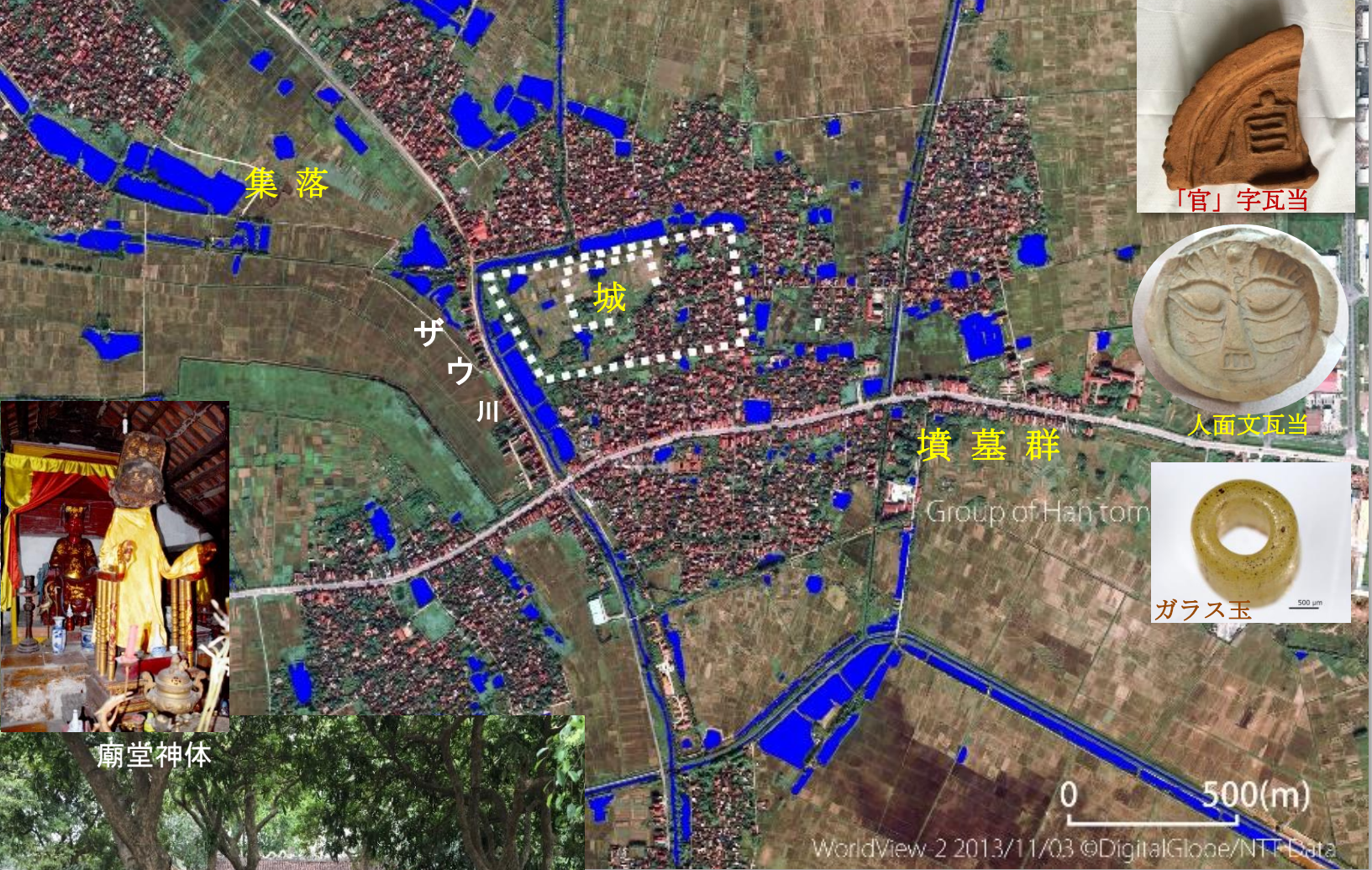
東亜大学 東アジア文化圏の形成研究プロジェクト

研究代表者 黄 晓芬

〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町2-1

tel. 083-257-5176(直通)

e-mail astasia.han@gmail.com



廟堂神体



城内の交趾郡太守廟

ルイロウ城内外に漢の交趾郡太守士燮(士王とよぶ)を祀る廟と士王墓があり、21世紀にいたるまで欠かすことのない祭祀行事が続けられています。



城外の交趾郡太守墓



墓前石羊

甦る 紅河デルタの港湾都市

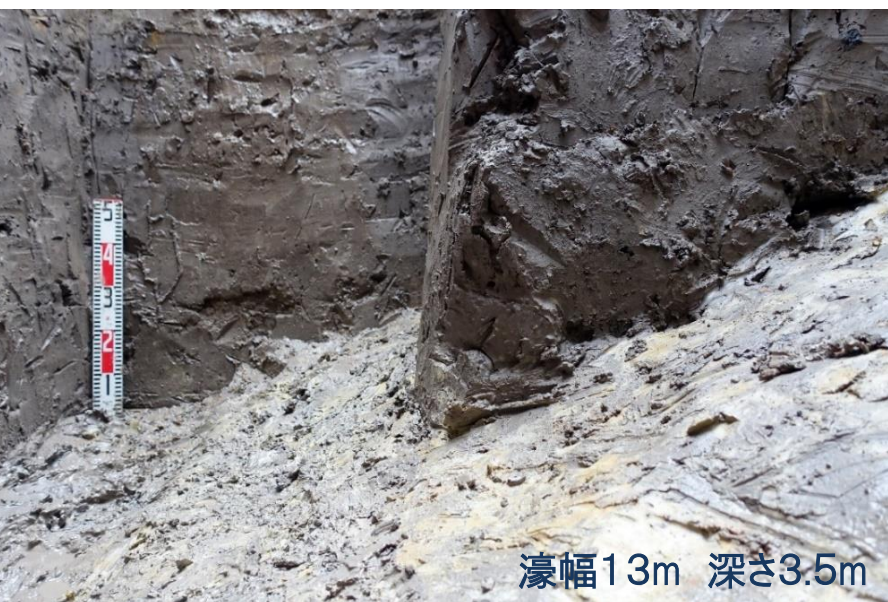
—城址・集落・河川交通・古墳群—

ベトナム北部、紅河デルタ平野に残るルイロウ遺跡は、紀元前110年、漢の武帝により設置された交趾郡治(=政庁)の所在地です。漢～六朝・隋唐初期まで、約700年間栄えつづきました。ここから漢字、律令制、儒教儀礼など漢文化がベトナムへ広がりました。ルイロウ城址の発掘では中国製絹片、漆器、陶磁器やガラスなどのシルクロードの交易品、仏教伝来の遺物も検出しました。また、出土ガラス玉は南インド原産でタイ、ベトナムを経て、遙々日本列島へ伝わり、弥生・古墳時代の遺跡でも発見されたものです。



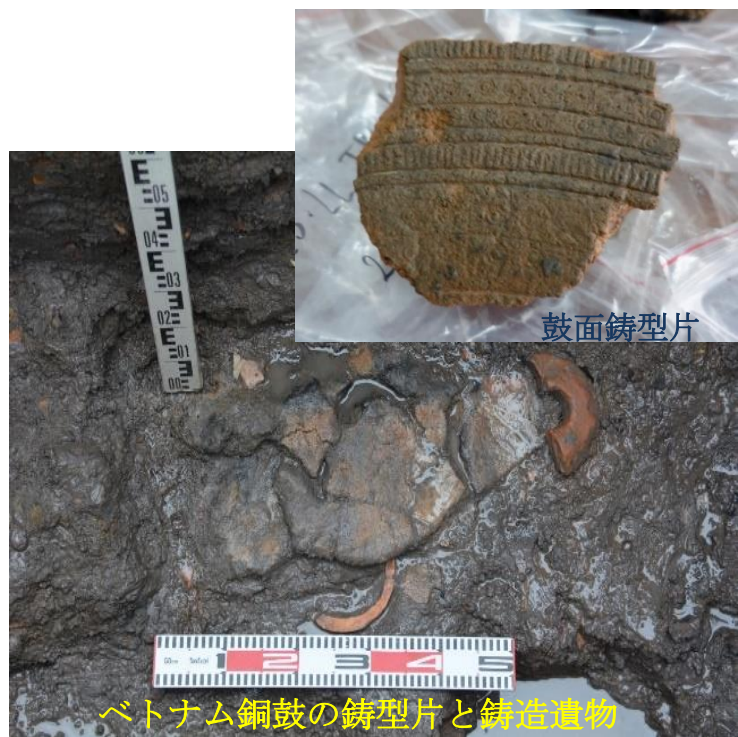
交趾郡太守の墓廟

ここまでわかった 政庁都市ルイロウの実態



濠幅13m 深さ3.5m

ルイロウ築城 I 期の城濠 B.C.1世紀



鼓面鑄型片

ベトナム銅鼓の鑄型片と鑄造遺物

これまで、四年連続で実施したルイロウ発掘は、土塁と城濠を造り内外の二重構造をもつ方形城郭と判明し、磚瓦建材、陶磁器、漆木器、銅鉄器など1万点を超す遺物が検出しました。それによって、交趾郡(州)の政庁都市ルイロウは、漢～六朝・隋唐期の4時期にわたって700年間栄えつづいたことが確認されました。また、ベトナム銅鼓の鑄型片や鑄造関連遺物が多量に見つかったことは、アジア文明史上初の発見でした。その結果、漢帝国の南端に設置された交趾郡が、強大な漢の軍事力・経済力によって一方的に飲み込まれたものではなく、在地文化と漢文化を融合させながら、穏やかな文化交流が図られたとの事実も明らかになりました。



磚敷きの建造物



内城土塁・城濠



本プロジェクトの学術調査と文化財保護活動はベトナム政府、学界から高く評価されています。2018年春、ベトナム文化部、文部大臣賞・記念勲章が授与されました。



盗掘に遭った漢墓

探求 古代アジア文化交流の実像

交趾郡治・ルイロウ発掘、学際的研究を継続的に実施し、政庁官衙建築、葬送文化、仏教の南伝ルートの検証と共に、都市ルイロウの製陶、冶金生産システムやベトナム銅鼓製造プロセスの解明を目指します。そして、海のシルクロードにつながるアジア古代文化交流の実像に迫ります。



開発で破壊された王侯墓

近年、ベトナム経済開発による遺跡の破壊が激増しています。2千年前に創建された交趾郡治-政庁都市ルイロウは、アジア古代文明の十字路に立ち、東アジア文化交流の拠点都市として700年間栄えてきました。本プロジェクトは、古代都市ルイロウの真相究明を探求しながら、アジア歴史遺産を守ることを緊急な課題とします。今、ベトナム交趾郡治・ルイロウ発掘と保護に関わる経費の調達が難しい状態にあり、あと一步で新しいベトナムの歴史、海のシルクロード研究に光が当たります。皆様方の御支援と御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

